

第2回空き家でええんかいグループまとめ

資料2-4

日 時：令和6年7月2日（火） 19：00～ 陶コミにて

【地域による移住対策の趣旨・目的】

- ・都市には都市の幸せがあるが、**田舎には田舎の幸せがある**
 - ・将来、集落を存続させるかたためかを決めるのはその地域の人々
 - ・人口の将来目標は人口増ではなく、子どもの数を減らさないこと→ターゲット層は決まってくる。どういう地域になっていきたいか。
- 地域のコミュニティの一員として、地域のあるべき姿に寄り添ってくれる方をターゲット層としたい。そういった条件を有する若い世代。

【具体的方法等】

- ・やるべきことを可視化できるとよい。
- 空家のリストアップ→当該空家の種類分け（すぐに使える空家、すこし修繕すれば使える空家、わりとボロボロの空家、賃貸希望や住んでもらうのはNGなどなど、分け方をどうするか）→そうした情報をグーグルマップなどに落とし込む（釜戸空家チームはここまでしている）※情報の管理はコミにて行うか
- 人資源のリストアップ（DIYの技能があり、教えてくれたり、ハーブに詳しい、プロ並みの料理を作れるなど、その方の得意分野を含めた人材バンクなど）
- ほかにも移住関係に役立ちそうな情報もリストアップして詰め込む
- さまざまな情報をもとに空家の所有者にアタックする。その際の障壁として
- ・こんな古びた家を貸せるはずがない、家を修理できない
- DIYしたい移住者は家はそのままで良い。そうした方とマッチングすればよい。また地域でDIYができる人を増やして、移住希望者の家の補修をイベントして楽しく行うこともできる。
- ・家財道具が残っている→必要なものだけ持って行ってもらい、あとは放棄してもらう。放棄してもらったものはDIYして使えるおしゃれなものにして再利用するなど、地域の方のイベントとして片づけることも可能。または空家改修の補助金（ただしバンク登録必要）
 - ・手続きが面倒くさい→相続登記等の問題があることが多いが、こうした場合、今手を打っておかないと、相続がどんどん進み、子どもたちに面倒がふりかかることになる。この機会に解決しましょうと持ち掛ける。具体的には司法書士に相談するなどしていく（市の無料相談もある）

- ・どういう人が入るかわからない→地域とのミスマッチを防ぐため、地域面談等を行う。地域での奉仕や役割、地域での繋がりや、自治会費などの説明を行い、地域の実情に合うか確認する。（そうした地域の情報が一覧・冊子等になっているとよいし、この機会に地域の行事や会費なども含めて見直すとい）
- ・仏壇がある→大事なのは位牌であり、仏壇ではない。位牌をしっかりと供養できるようにすれば良いので仏壇は処分等していくとよい。もしくは仏間は貸さないとの解決策もある。
- ・時々使っている→墓参りの際に親戚などが集まることのあるといった場合には、事前に連絡すれば、その期間はもともとの方が入れるといった契約を交わすことで解決できる。

→いずれにせよ、個別個別ではあるものの、知恵を使えば解決できる問題ばかりであるから、都度チームで話し合い、解決方法を探っていくことを楽しむと良い！これ自体が地域のコミュニティ維持に繋がる。

〈今後の検討事項〉

- ・大湫、釜戸や日吉など移住チームの活動を見学し、協働していくか。
- ・人が集まる地域の窓口（釜戸のビアワークス、陶のオーガニックファーム）を移住チームの柱としてどのように協働していくか。そこから移住ツアーなどを展開していくか。
- ・空家のリストアップをさらに進め、実際紹介やツアーを組む際に、継続的にあっせんすることがグレーとなることから、資格を持った方に協力を願えないか。
- ・空家等を改修して交流拠点とできるか。またそこはステップアップを活用できるか。さらに、交流拠点としてずっとは使わないので、お試し宿泊や地域の一時的な試験的活用場所など（期間限定のカフェや商店）に活用していくことを検討できるか。
- ・併せて情報発信をいかにおしゃれにすることができるか。これが肝。
- ・耐震補強はどの程度考えるか。家主によっては責任が取れないので、そのまま貸せない。買主がそれでよければ良いと割り切るか。
- ・空家での交流拠点の改修の際に DIY 講習を地域で実施し、DIY できる方を増やしていき、そうした方が移住者の家を手伝うことを陶に移住する方への現実的かつアットホームな特典とするか。
- ・ターゲット層は若い世代とするか、年間何世帯とするか。
- ・陶の昭和感をどのように売りにしていくか。
- ・行政が空家をサブリースや改修して安く移住者に売る仕組みなどを創ってもらうか。

楽しい楽しい♥MEETING



空き家でええんかい!

がやがや会議 with 高野先生

—「—「—「—「—「—「—「—「—「—
2024年 7月2日 火 19:00から
陶コミュニティセンターにて



名古屋大学大学院環境学研究科
持続的共発展教育研究センター 教授
さまざまな分野の専門家と協働し、地下資源が枯渇した
1000年後でもやっていただけるような地球と社会のシステム
を作り出すための「千年持続学」を構想中。
また市民ひとりとして行政やNPOと協働して「千年持続
型社会」を実現するための活動に参加。その内容をブログ
「だいず先生の持続性学入門」で発信中。
近年は、大湫町、釜戸町へのまちづくり活動にもご参画
いただいています。

陶のために
何が
できる?

こんなこと
したらいい
かも!

みんなは
どんなこと
考えてる?

まずは話を
聴いて
みたい!